

TABLE FOR TWOかわら版 補足資料 ～Vol.21～

2015年12月発行

TFTプログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTABLE FOR TWOプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆さまにお届けするための補足資料です。貴団体内でのコミュニケーションやPRにご活用いただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒宜しくお願い致します。

<補足資料Vol.21をお送りするにあたって>

タンザニアは過去10年にわたり、年6～7%という高い経済成長率を達成してきましたが、依然として貧困率は65%を超える状況が続いています。今回の補足資料では、タンザニアの様子や給食プログラムの実施状況についてお伝えいたします。

TFTは現在タンザニアで3種類の給食プログラムを支援しています。今回のかわら版と補足資料では、国連WFPが実施する地産食材による学校給食プログラムについてご紹介いたします。TFTは国連WFPとのファンドレイジング協定に基づき、本プログラムを支援しています。

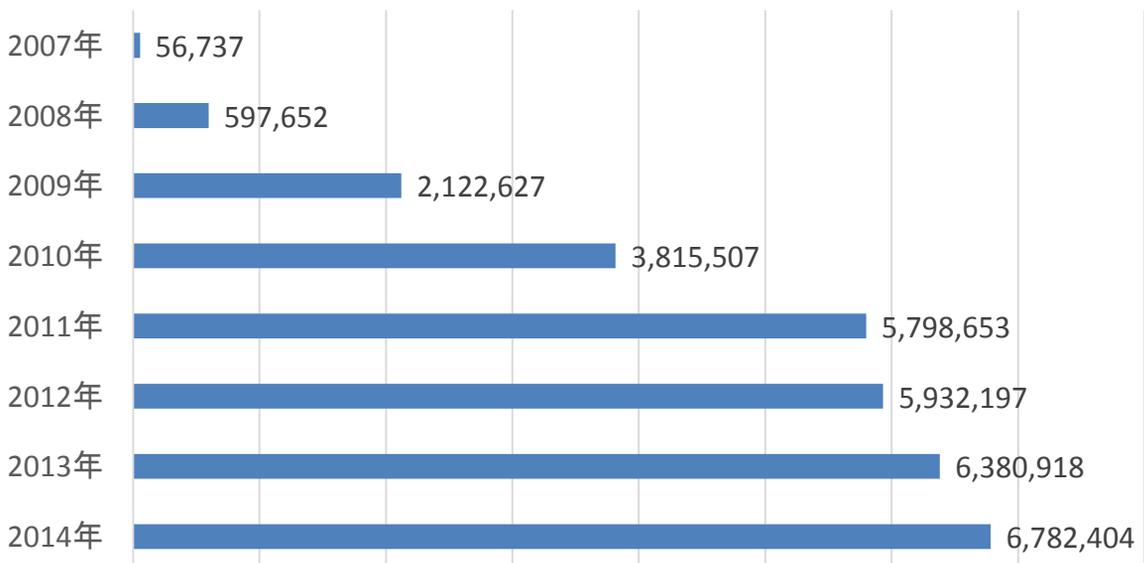
2ページ目以降の資料は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます。かわら版本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイトからダウンロードしてご利用いただけます。

<TFTプログラムのご参加団体数（日本国内）>

計 686社・団体（2015年10月）

<これまでに寄せられたご寄付> * TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

合計**3,723万5,958**食分（2015年の11月末までの分を含む）





タンザニアは中央アフリカ東部の共和制国家で、日本の約2.5倍の国土面積に5,000万以上の人口を擁しています。1996年にドドマに首都が移転しましたが、多くの政府官庁や経済活動の中心は、旧首都ダルエスサラームにあります。

ダルエスサラームでは高層ビルの建設が進んでおり、毎日のように朝、昼、夕方の3回、ひどい渋滞が発生しています。車は日本と同じ左側通行で、街中では日本の中古車を目にすることも度々です。

タンザニアの教育システム

タンザニアの教育制度は、小学校7年、中学校4年、高校2年、大学となっており、小学校の7年間は義務教育です。小学校では公用語であるスワヒリ語で授業が行われますが、英語の科目が1年生から授業に取り入れられています。小学校の4年生と7年生の終わりに国家試験があり、これに合格しないと上位学級及び中学校へ進むことができません。この試験に備えて補習授業や模擬試験を実施する学校もあります。

小学校の授業料が2001年に無償化されて以来、就学率が大幅に向上し、15歳以上の識字率は79%まで向上しました（世界銀行 2012年）。



タンザニアでは多くの学校で制服が採用されています



裸足で1時間以上かけて通学する生徒も

タンザニアを襲う洪水や干ばつ

2015年の雨季には例年以上の大雨により、洪水被害に遭った地域が続出しました。給食の食材を運搬する車が通る道も浸水し、迂回などを余儀なくされました。

一方でこの数年、干ばつによってトウモロコシや豆の栽培に影響を受けている地域も多く、小規模農家の食の安全保障が脅かされています。



© PCI

地産食材による学校給食プログラム

国連WFPは世界各地でHome-grown School Feeding Program（地産食材による学校給食）を推進しています。このプログラムでは食料生産、輸送、消費の「地域化」の促進を目指しており、また保護者や教師と農家が地元の農産物を学校給食に使用するように当局と交渉を進められるよう、発言力を高めることも目的としています。タンザニアでは40校、約2万5,000人の生徒を対象に地産食材による学校給食プログラムが実施されています(2015年)。



タンザニアの多くの地域ではトウモロコシ（メイズ）が主食の一つです。国内生産の不足を補うために、年間数十トンが輸入されています。国連WFPの地産食材による学校給食では、主要な食材となるトウモロコシを地域の農家から調達しています。

日本では正午過ぎから始まる給食の時間ですが、タンザニアではやや遅めの13時ころに給食を食べるのが一般的です。生徒たちはお皿を手に、列を作って配膳の順番を待ちます。豆とトウモロコシの給食が提供されており、スプーンを使って食べる生徒もいれば、右手で食べる生徒もいます。



調理環境の改善などで、さらに充実した給食プログラムへ



タンザニアの農村地域の多くでは、大きな石を3つ置き、その上に鍋を乗せる「三石カマド」が用いられています。簡単に設置できる反面、大量の薪が必要で、室内に煙が充満し、吸い込んだ煙で気管支系が傷ついてしまうといった欠点が挙げられます。

国連WFPは熱効率がよく、煙の吸い込み量を軽減できるカマドの普及を推進しています。調理環境が改善された学校では、より効率的に調理できるようになります。